

編集後記

十勝の名称は、十勝川を表すアイヌ語の「トカプチ」に起因すると言われることから、遙か昔から十勝川が人々に畏怖の念を抱かせる大変大きな存在だったことがうかがい知れます。大正12年に始まった十勝川治水事業の歴史は100年を迎えました。この間、幾度の大規模な洪水被害に見舞われながらも、先人たちの川を治める知恵と弛まぬ努力によって、十勝川は食料自給率約1,300%を誇る生産空間である十勝を支えています。

本誌の編纂作業は、昭和48年刊行の「十勝川治水史」から50年の治水の歩みを振り返るといふ壮大な「旅」となりました。この「旅」を支えてくださった、編纂委員会の委員をはじめとする諸先輩の皆様やご寄稿いただいた皆様、そして、資料収集や校正作業等を担っていただいた事務局の皆さん、お忙しい中ご協力いただき本当にありがとうございました。想定していた400ページを大幅に超えて700ページ余りの大作となったことから、皆様の十勝川への熱い想いが伝わってきます。

少々個人的な話をさせていただくと、小職は「十勝川木野引堤事業」によって架け替えとなった現在の十勝大橋上部工事の監督員でした。それから四半世紀以上の年月を経て当部勤務となったタイミングで十勝川治水100年の節目を迎えたこと、十勝川との「ご縁」をしみじみ感じています。さらに、特別寄稿を快諾いただいた田中土木学会会長も、十勝大橋上部工事に携わっておられ、毎日のように現場で打ち合わせをさせていただいていました。これもまた十勝川を介した「ご縁」であると強く感じています。

十勝川が次の100年に向け、地域の方々と素敵な「ご縁」を育みながら更なる地域の発展に貢献することを祈念して編集後記とします。

十勝川治水史編纂委員会 副委員長
帯広開発建設部 次長 神山 繁

○十勝川治水史編纂委員会（名簿）

令和5年10月（敬称略）

委員等	氏名	所属	帯広開建での職歴（最終）
委員長	井田 泰蔵 (小林 幹男)	帯広開発建設部長	
副委員長	神山 繁	帯広開発建設部次長	
委員	矢部健一郎	帯広開発建設部治水課長	
委員	久保 徳彦 (須賀 可人)	帯広河川事務所長	
委員	古賀 文雄	池田河川事務所長	
委員	岡部 和憲	(一財)北海道河川財団 会長	治水課長
委員	平野 令緒	宮坂建設工業(株) 副社長	治水課長
委員	宮島 滋近	西江建設(株) 副社長	治水課計画係長
委員	宇野 修		帯広河川事務所長
委員	成田 明	萩原建設工業(株) 顧問	池田河川事務所副所長
委員	横道 雅己	(株)北開水工コンサルタント 取締役常務	帯広河川事務所長
委員	平野 正則	東和工研(株) 常務取締役	帯広河川事務所副所長
委員	桑原 誠	村上土建開発工業(株) 札幌支店長	技術管理官
委員	紅葉 克也	(株)紅葉流域設計 代表取締役	治水課水理係
() : 上記委員等の前任者			
相談役	舘谷 清		治水課長
顧問	新庄 興		治水課計画係長
顧問	御坊田裕己	(株)北土開発 取締役副社長	次長

令和5年10月発行

続十勝川治水史

発行 北海道開発局 帯広開発建設部
編集 十勝川治水史編纂委員会
監修 十勝川治水史編纂委員会